

# 国立大学法人 金沢大学



## 端末の相互接続性を大きく高める クラウド型ビデオ会議サービスを活用



### 製品 & サービス

- Cisco Collaboration Meeting Rooms (CMR) Cloud
- Cisco WebEx
- Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS)

### 課題

- 学内に異なるメーカーのビデオ会議システムが多数存在し、運用管理が非常に煩雑
- 利用形態に起因するビデオ会議システムやWeb 会議サービスへの過剰投資

### ソリューション

- クラウド型ビデオ会議サービスで相互接続性と端末アクセスの柔軟性を向上
- ビデオ会議システムおよびネットワークの統一的な管理を実現

### 結果～今後

- 学内における Web 会議の利用促進を図る

石川県金沢市にある金沢大学は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という理念を掲げ、グローバル社会をリードする人材の育成と世界に通用する研究拠点の実現に向けて大学組織全体にわたる改革に取り組んでいます。平成 26 年には文部科学省が推進しているスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、カリキュラムの一新、アクティブ ラーニングの推進などを行う中で ICT を活用したビデオ教材などの活用も進めています。他大学との連携や共同大学院の創設といった取り組みにも積極的です。

**シスコはネットワーク分野の老舗的存在で、最近ではアプリケーションの分野にも積極的な印象があります。ビデオ会議ソリューションでもトップクラスのベンダーと捉えています。**

—— 国立大学法人 金沢大学  
総合メディア基盤センター長 工学博士 森本 章治 氏

金沢大学は、国内有数の広さを誇る角間キャンパスと、医薬保健学域がある宝町・鶴間キャンパスの 2 つを有しています。大学業務に関する会議は主に角間キャンパスで行っており、広大なキャンパス内の往來に時間がかかることや、宝町キャンパスからの移動をなるべく減らすことを踏まえ、ビデオ会議システムによる遠隔会議を行ってきました。また学外とのコミュニケーションにもビデオ会議を活用しています。

### 課題

学内のビデオ会議システムは各部署や研究室が個別に選定、導入してきたため、メーカーは統一されていませんでした。また機能や使い方もまちまちで、利用時のセッティングにも時間がかかっていました。

総合メディア基盤センター長の森本章治氏は次のように話します。

「一般教員の労働を増やさないように無駄な会議の削減を目指していますが、主に管理業務を担う教員の会議は増えている気がします。その都度総合メディア基盤センターの担当者が現場に赴いてセッティングしていましたが、こちらも人数は少ないので負担は大きかったですね。ビデオ会議システムの世代も古く、画質、音質への不満も高まっていました。」



国立大学法人 金沢大学  
総合メディア基盤センター長  
工学博士  
森本 章治 様



国立大学法人 金沢大学  
理工研究域  
主任技術職員  
浜 貴幸 様



国立大学法人 金沢大学  
総合メディア基盤センター  
技術専門員  
山上 尚幸 様



国立大学法人 金沢大学  
総合メディア基盤センター  
(人間社会系事務部)  
主任技術職員  
松能 誠仁 様

理工研究域 主任技術職員の浜貴幸氏は次のように話します。

「導入した部署ごとにシステムを管理していたので一貫性がなく、これはネットワーク周りも同様でした。その結果過剰な投資につながっていたので、統一的に管理しようと考えたのが今回の発端です。ここでまず Cisco VCS の提案をいただき、導入を決めました。Web 会議も特定の会議や相手に限定した使われ方で、すでに契約しているものをほかの会議にも使うという発想に至っていない部署が多くありました。これも無駄なのでやめようと考え、シスコから Cisco WebEx の提案をいただきまして、そこからさらに Cisco CMR Cloud へと話が進んだかたちです。この 3 つを組み合わせ、ビデオ コミュニケーションを電話と同じくらい身近なものにしようというコンセプトで進めています。」

## さまざまなビデオ会議システムを Cisco CMR Cloud で相互につないで ビデオによるコミュニケーションを もっと使いやすくしていきます。

### ソリューション

#### 多様な端末の相互接続が可能な Cisco CMR Cloud

Cisco Collaboration Meeting Rooms (CMR) Cloud は、Web 上に仮想会議室を設けていつでもビデオ会議を開催できるクラウド サービスです。Cisco TelePresence シリーズや Cisco WebEx だけでなく、ビデオ会議の標準規格に対応している各社の端末からもアクセスすることができ、会議運営の柔軟性と端末の相互接続性を大きく高めます。

金沢大学ではビデオ会議端末としてタンバーク時代から活用しているシスコ製品の他にもさまざまなメーカーの製品が使われており、それらと Web 会議の連携、統合的なビデオ会議の運用に向けた取り組みを進めていると浜氏は話します。

「学内ではパナソニック、ソニー、ポリコム、ライフサイズなど各社の端末が使われています。これらの端末やスマートフォン、タブレットなどをつないだ Cisco CMR Cloud の本格的な運用はこれからですが、遠隔での会議や講義で順次利用していくことになるでしょう。個人の端末でもアクセスできるので、講義への参加もしやすくなると思います。」

総合メディア基盤センター 技術専門員の山上尚幸氏は、Cisco CMR Cloud の活用について次のように話します。

「医薬保健学域 (宝町キャンパス) ではビデオ会議システムをたくさん持っていますが、接続先を固定しているものがほとんどです。やり取りする内容が個人情報を含んでいたり、限定的だったりということが理由だと思いますが、中には個人情報が含まれないカンファレンスなどを医学系の人たちにもっと広く見られるようにしたいといった要望もあります。Cisco CMR Cloud はそうしたときに使い勝手の良い基盤として活用できるでしょう。」

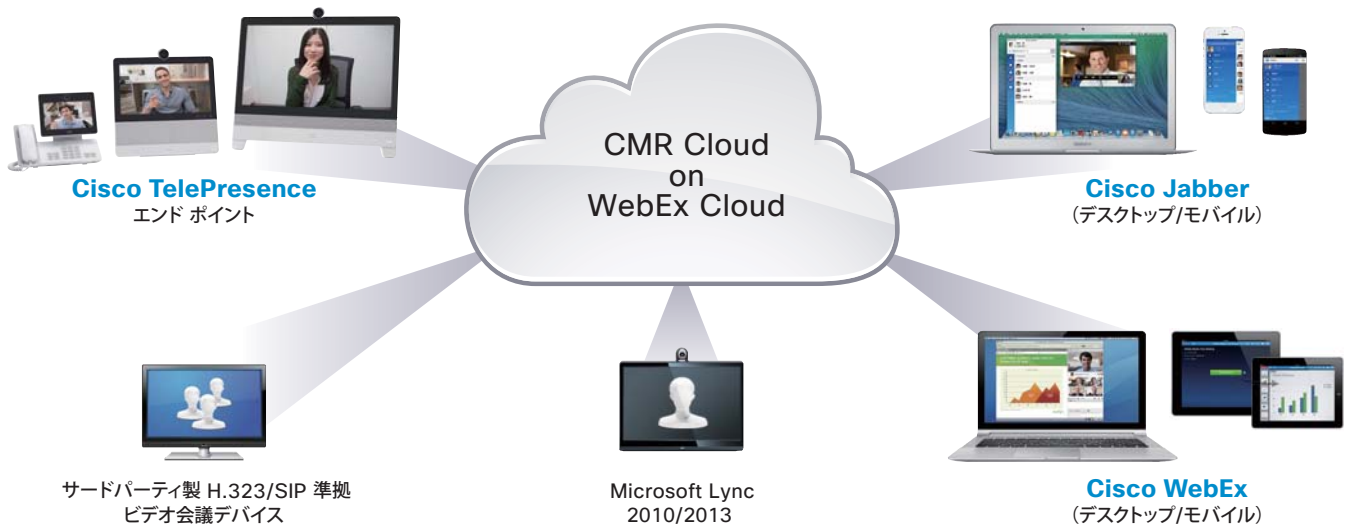
#### Web 会議の環境を Cisco WebEx へ集約

Web 会議サービスの Cisco WebEx は、会議の番号とパスワードを参加者に送付すれば、どこからでも参加することができます。金沢大学では総合メディア基盤センターが提供するサービスとして Cisco WebEx を正式に採用しました。

総合メディア基盤センター 主任技術職員の松能誠仁氏は次のように話します。

「学内では Skype が多く使われているのですが、ユーザ 1 人につき 1 つの ID が必要で、ビデオ通話の際は事前に相手と ID を交換、登録しておく必要があるため、総合メディア基盤センターが提供するサービスとして学内全体に普及させるのは難しい面がありました。Cisco WebEx は会議の番号とパスワードがあればよいので参加者は手間がかかりません。参加する拠点 (参加者) の追加が容易なものもポイントです。」

## Cisco CMR Cloud の利用イメージ



## Cisco WebEx と自動連携する予約システムを内製



また開発ツールや API が揃っているので、ビデオ会議端末と並行して運用していくことを考えると、トータルで使いやすい環境が作れるのではないかと見据えて採用しました。金沢大学ではシボレス認証を使った全校共通の ID を運用しており、Cisco WebEx と連携した予約システムを内製することで、さらなる利便性の向上が図れています。」

## 統一的な管理と安全な通信を実現する Cisco VCS

Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) は、ビデオ会議のセッション管理と制御の簡素化、ファイアウォール越えの接続における通信の安全性強化などを担うコンポーネントです。金沢大学では学内で利用している各社ビデオ会議システムの相互接続性向上、ネットワークを含めた統一的な運用管理を Cisco VCS で実現しています。

## 結果～今後

金沢大学では、Cisco CMR Cloud や Cisco WebEx の利用をさらに進めていきます。国内だけでなく、海外の大学や研究機関とのコミュニケーションにも活用していくのみならず、スーパーグローバル大学創生支援事業の一環で、海外留学生の入試にも取り入れていきたいと考えています。

## その他の詳細情報

Cisco CMR Cloud の詳細は、

<http://www.cisco.com/web/JP/product/hs/webex/cmrcld/index.html> を参照してください。

# 国立大学法人 金沢大学



**所在地** 金沢市角間町（角間キャンパス）  
金沢市宝町 13 番 1 号（宝町・鶴間キャンパス）

**創立** 1949 年

**学生数** 10,286 名（平成 28 年 5 月 1 日現在、付属学校園を除く）

**URL** <http://www.kanazawa-u.ac.jp>

金沢大学は石川県金沢市にある国立総合大学。「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を大学憲章に掲げ、高等教育と学術研究に大きく貢献してきた。ICT 活用への取り組みも盛んで、高度情報時代に対応できる情報処理の基礎能力・総合力を持った人材育成のため、多方面で ICT を活用した先進的な活動を続けている。平成 26 年度には文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、大学改革と教育の国際化を加速度的に進めるとともに、平成 27 年度には新たな研究組織として新学術創成研究機構を設置。革新的な研究成果・新しい学問領域の創出につながる学際的な研究を推進している。

©2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。（1502R）

この資料の記載内容は 2016 年 7 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



お問い合わせ

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>